

2-4 危機管理対策

(1) 浄水場の耐震化や水道管の耐震強化などの取組の認知度

問 水道局では、震災や事故などに備えて、浄水場の耐震化や水道管の耐震強化（※1）、管路のネットワーク化（※2）などを進めています。

この取組について、ご存知ですか。

※1 耐震性の低い水道管を耐震性の高い管に取り替えています。

※2 震災等により水道管路に異常があった場合でも、断水・濁水を最小限に抑えるために、他の系統からの給水を可能にするための管路の整備拡充を図っています。

1) 知っている

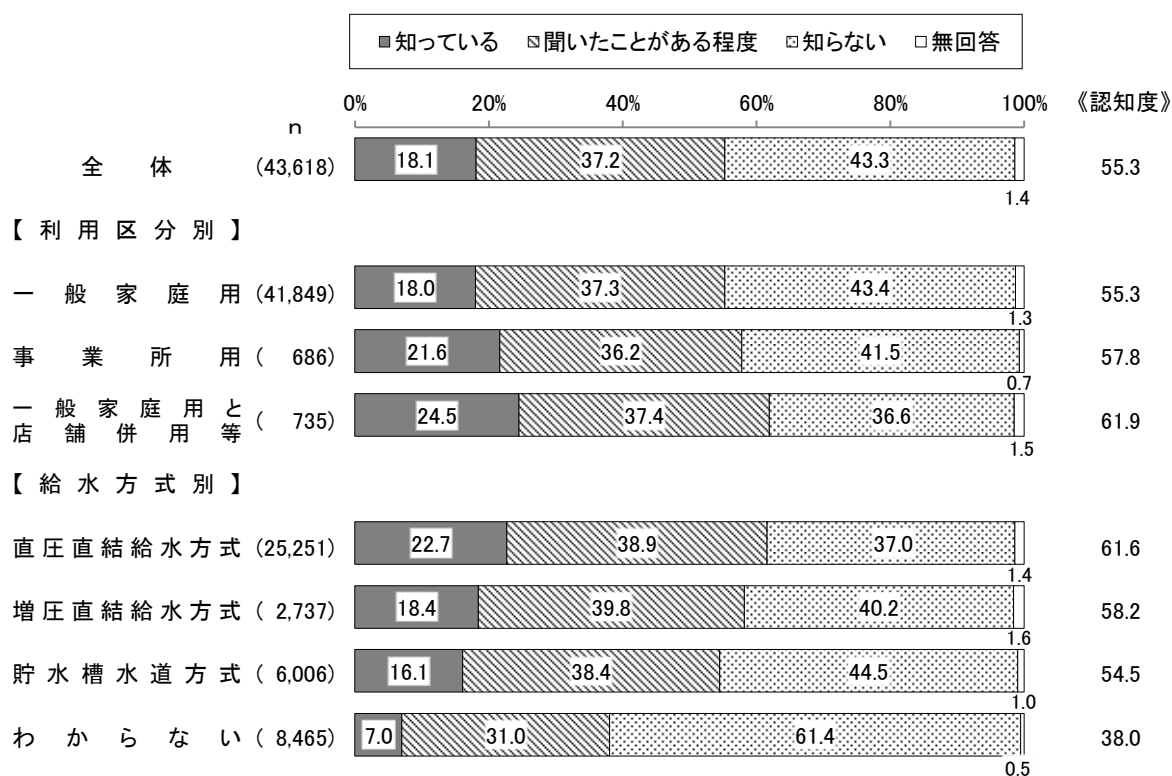
2) 聞いたことがある程度

3) 知らない

〔C：問8〕

〔調査結果〕

① 浄水場の耐震化や水道管の耐震強化などの取組の認知度（給水方式別）〈図表2-4-1〉



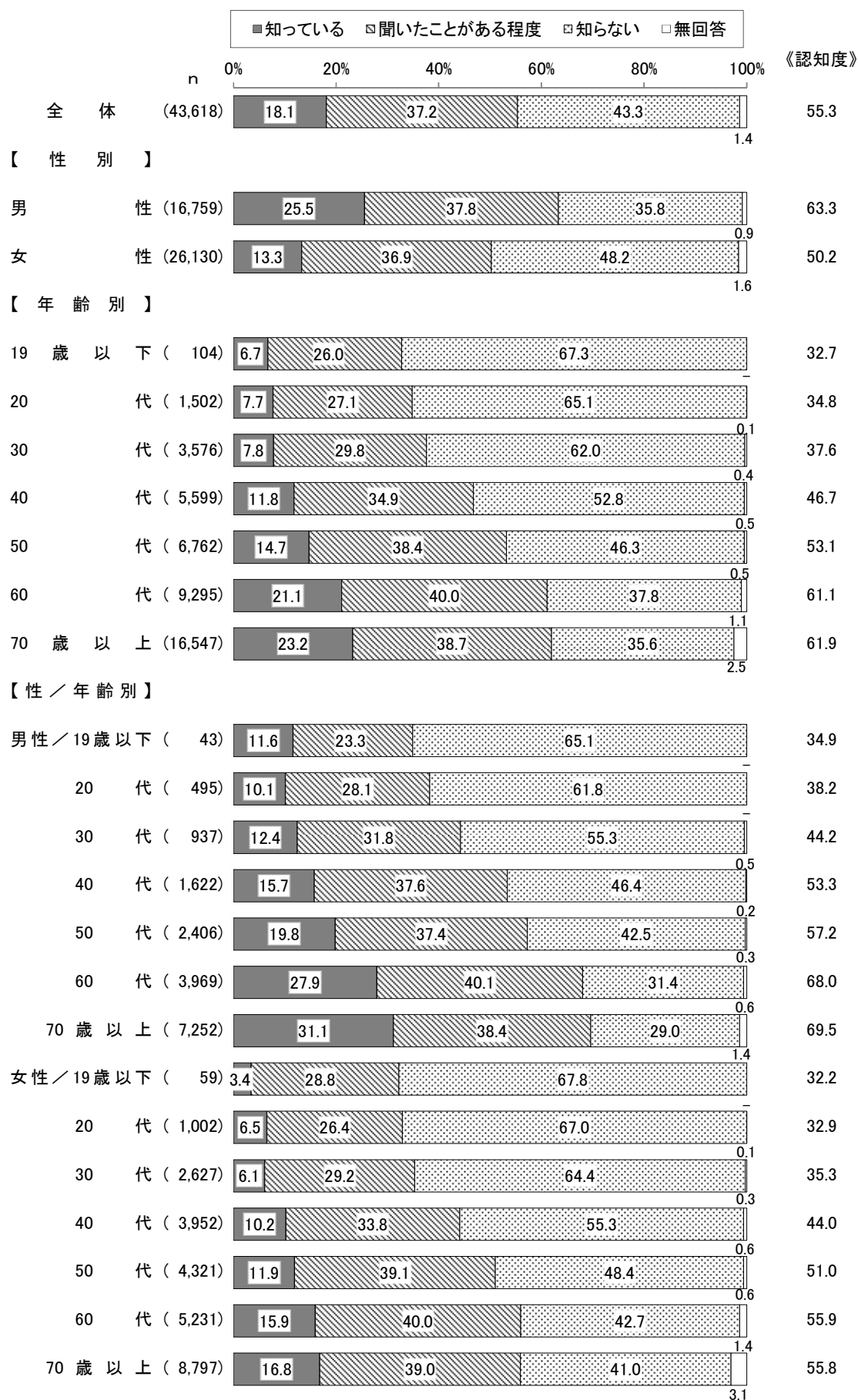
＜特徴＞

○全体では、「知らない」が43.3%で最も高くなっている。次いで「聞いたことがある」が37.2%で、「知っている」(18.1%)を合わせた《認知度》は55.3%となっている。

○利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で61.9%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《認知度》は、直圧直結給水方式で61.6%と最も高くなっている。

② 浄水場の耐震化や水道管の耐震強化などの取組の認知度（属性別）〈図表 2－4－2〉

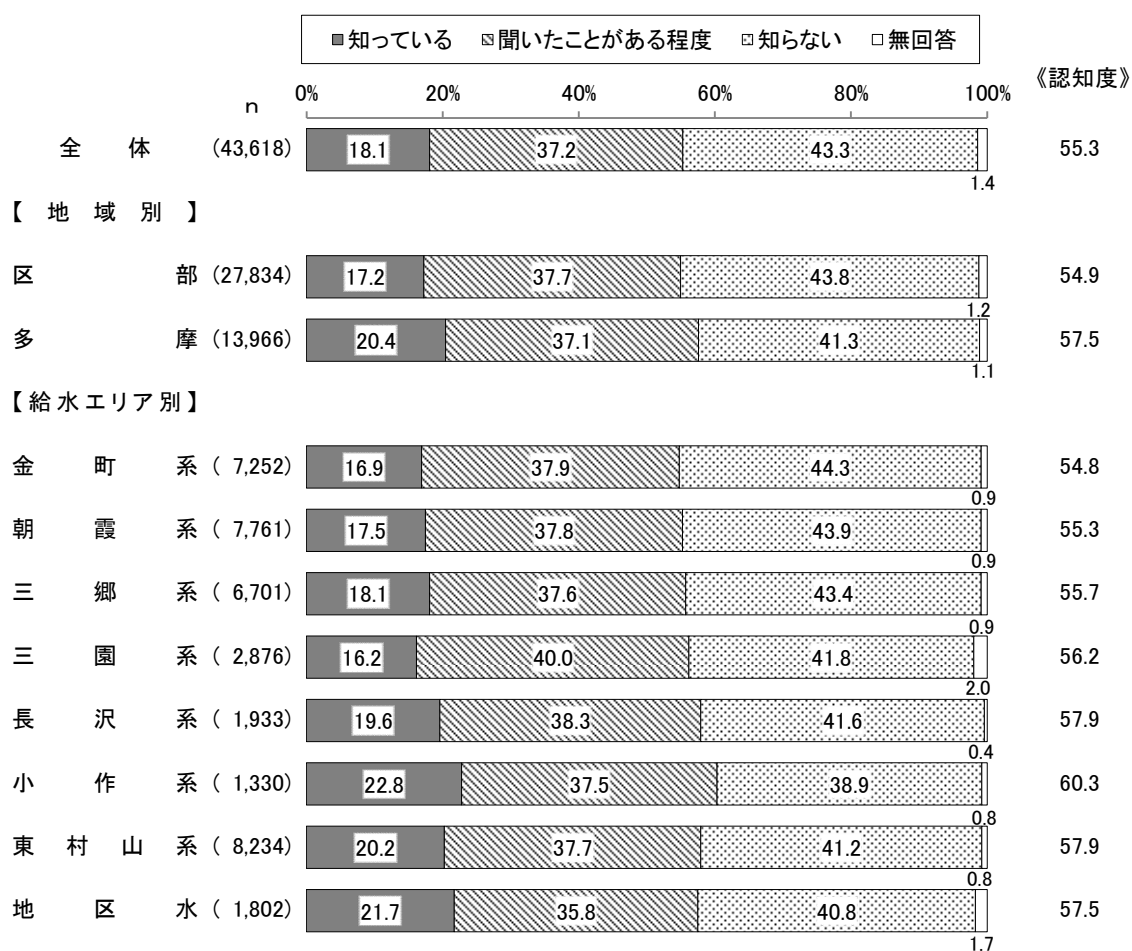


<特徴>

- 性別では、《認知度》は、男性（63.3%）の方が女性（50.2%）より13.1ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、19歳以下（32.7%）で最も低く、年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（61.9%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男女とも19歳以下（男性34.9%：女性32.2%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、男性の70歳以上（69.5%）で最も高くなっている。

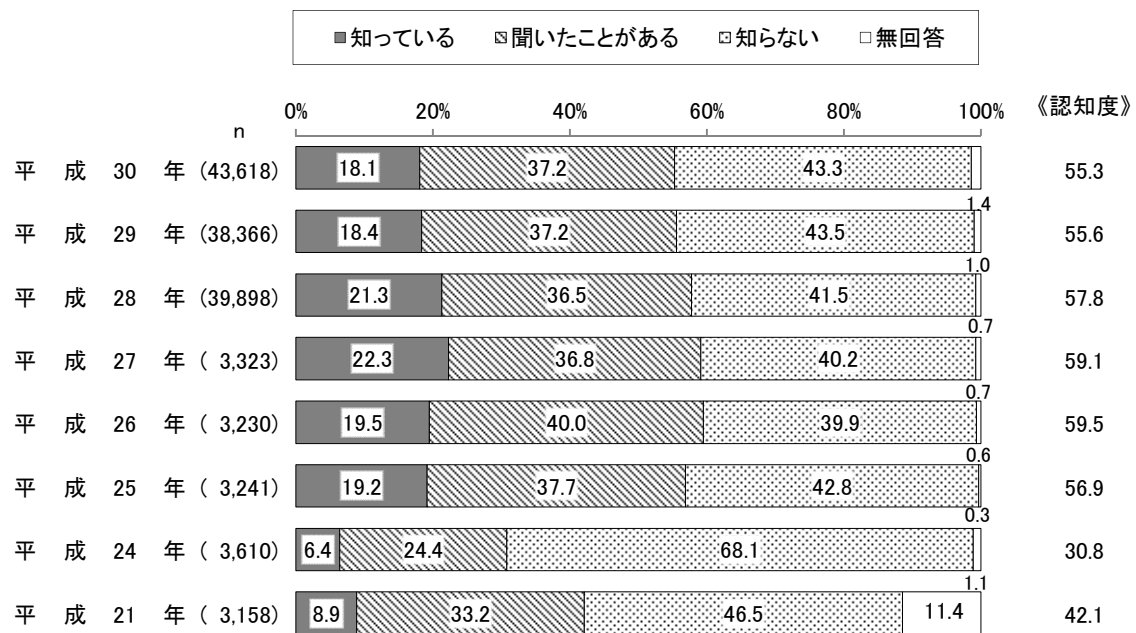
③ 浄水場の耐震化や水道管の耐震強化などの取組の認知度（地区別、給水エリア別）

〈図表2-4-3〉



- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《認知度》は、小作系（60.3%）で最も高くなっている。

④ 浄水場の耐震化や水道管の耐震強化などの取組の認知度（時系列：全体）〈図表 2－4－4〉



＜特徴＞

○前年度調査との比較では、《認知度》に特に大きな違いは見られない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向では、《認知度》が6割近くから5割台半ばに減少傾向となっている。

（２）大規模浄水場の老朽化が進んでいることの認知度

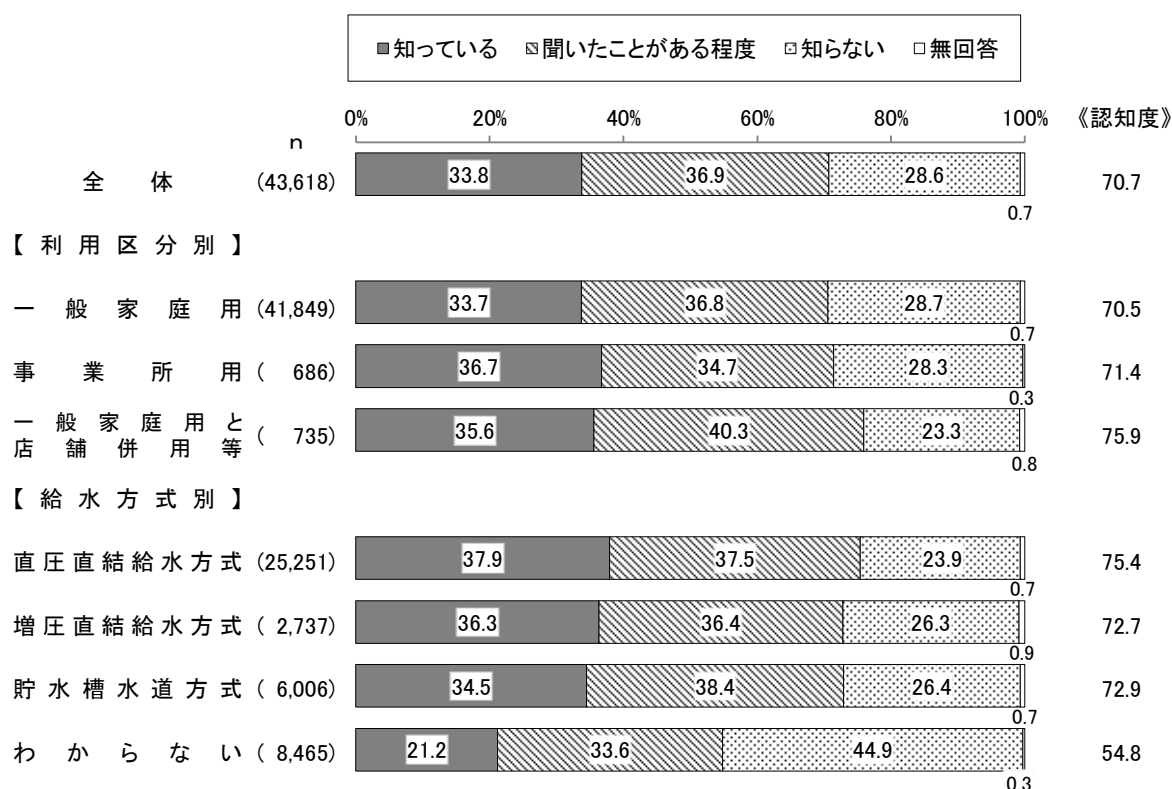
問 東京都の大規模浄水場は、昭和 30 年代後半からの高度経済成長期の需要増に対応するために整備されたものが多く、現在老朽化が進んでいることをご存知ですか。

1) 知っている 2) 聞いたことがある程度 3) 知らない

〔C：問 9〕

〔調査結果〕

① 大規模浄水場の老朽化が進んでいることの認知度（給水方式別）〈図表 2－4－5〉



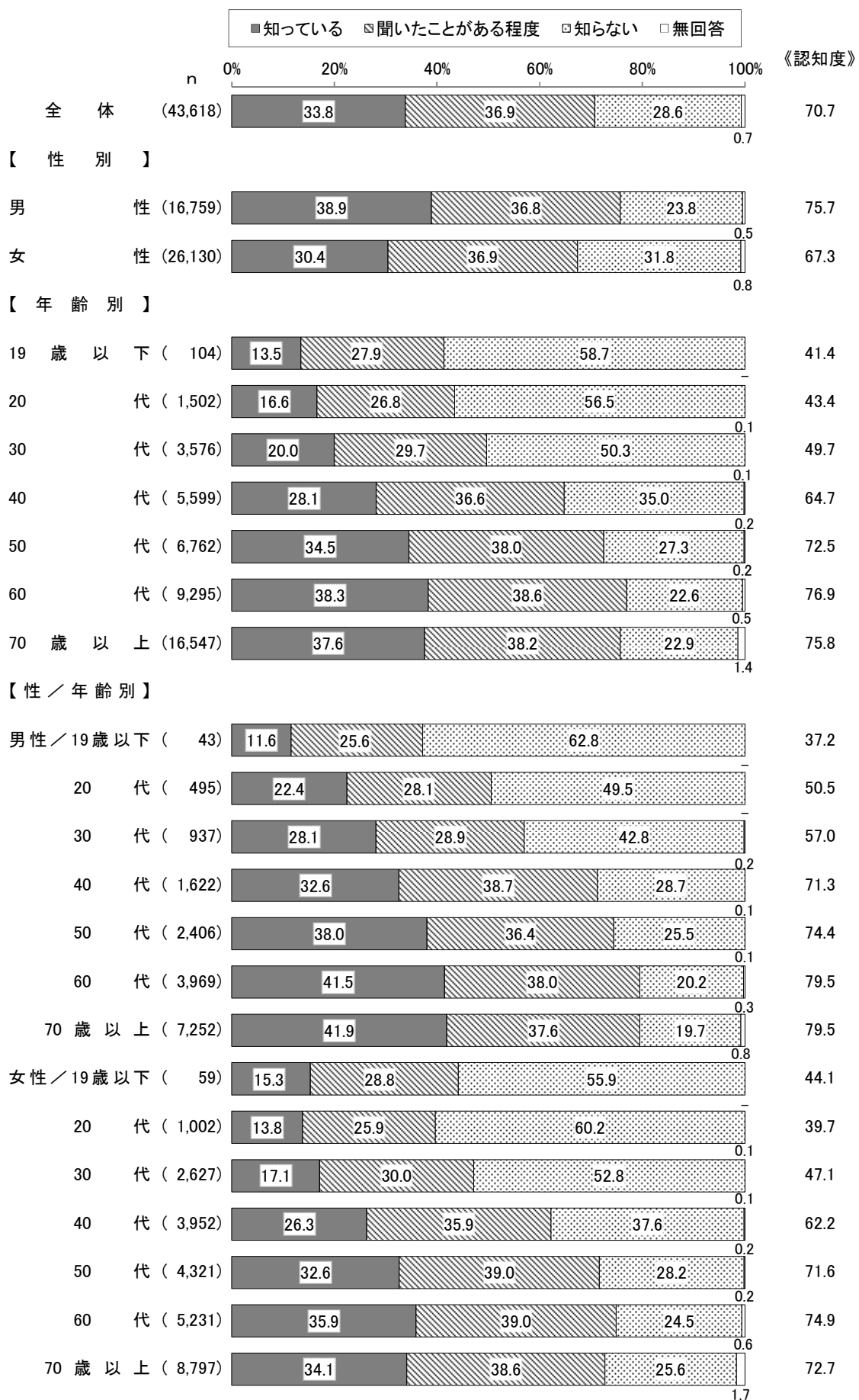
＜特徴＞

○全体では、「聞いたことがある程度」が36.9%で最も高く、「知っている」（33.8%）を合わせた《認知度》は70.7%となっている。

○利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で75.9%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《認知度》は、直圧直結給水方式で75.4%と最も高くなっている。

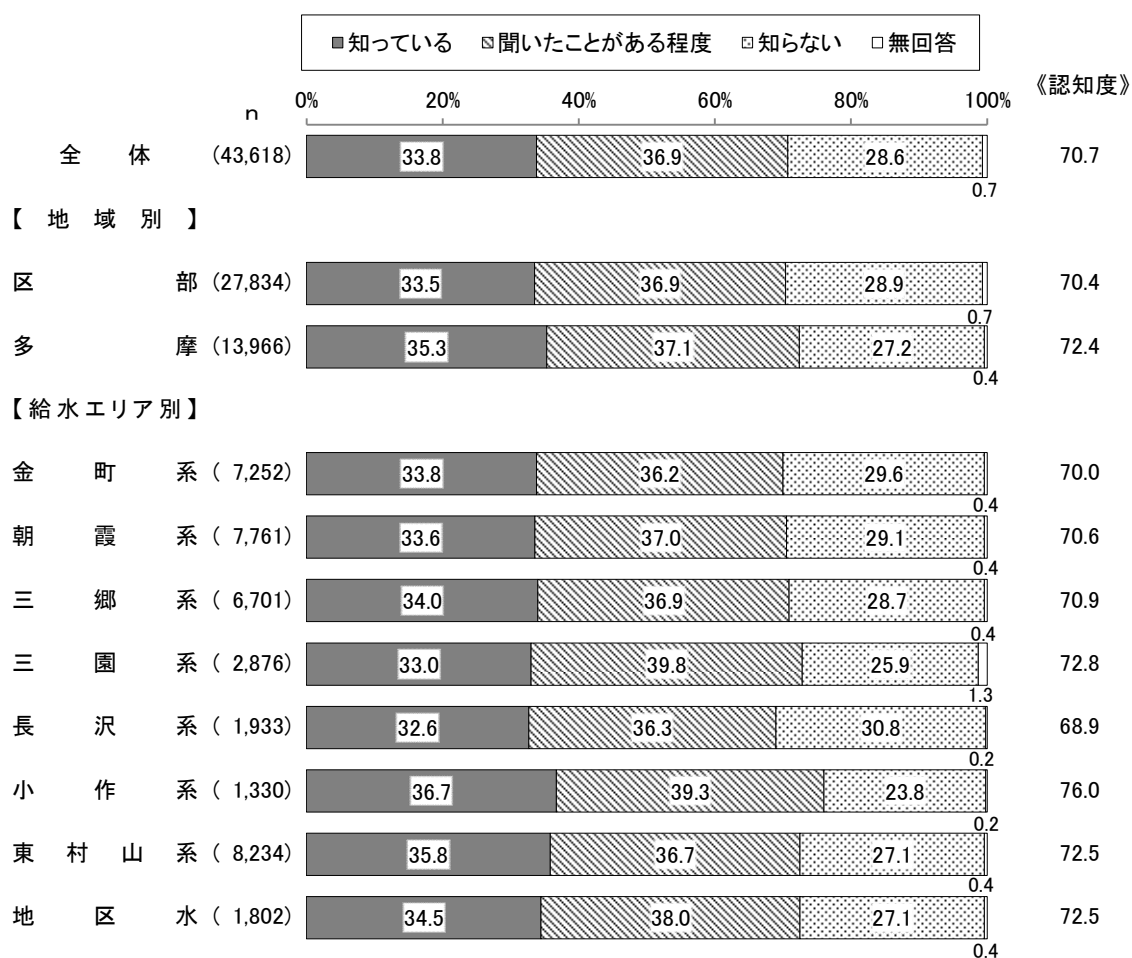
② 大規模浄水場の老朽化が進んでいることの認知度（属性別）〈図表２－４－６〉



<特徴>

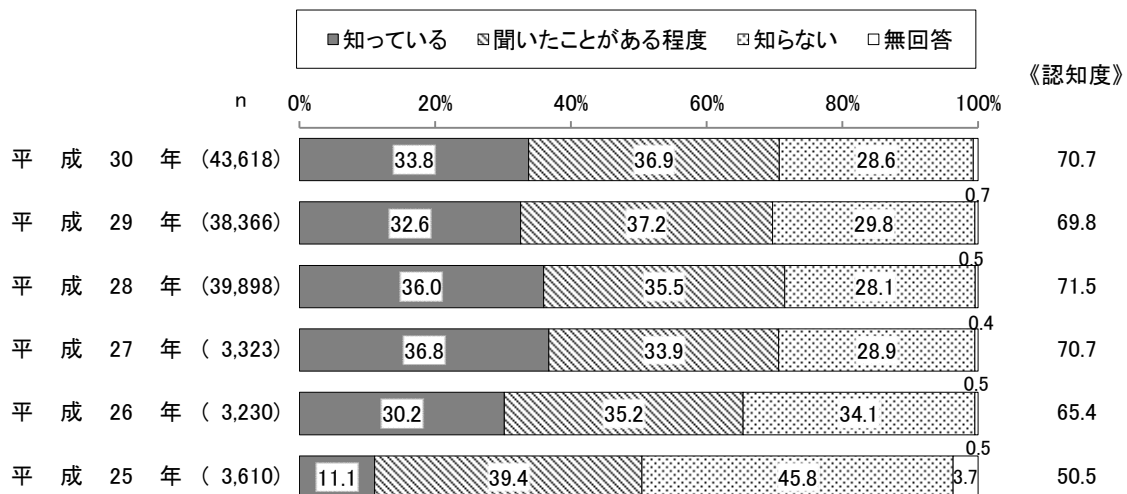
- 性別では、《認知度》は、男性（75.7%）の方が女性（67.3%）より8.4ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、19歳以下（41.4%）で最も低く、60代までは年齢が上がるほど割合は高くなっており、60代（76.9%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男女ともに概ね年齢が上がるほど割合は高くなっており、男性の60代と70歳以上（ともに79.5%）で最も高くなっている。

③ 大規模浄水場の老朽化が進んでいることの認知度（地区別、給水エリア別）〈図表2-4-7〉



- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、小作系（76.0%）で最も高くなっている。

④ 大規模浄水場の老朽化が進んでいることの認知度（時系列：全体）〈図表 2－4－8〉



＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《認知度》は7割前後で推移している。

(3) 震災に備えた「飲料水」の確保状況

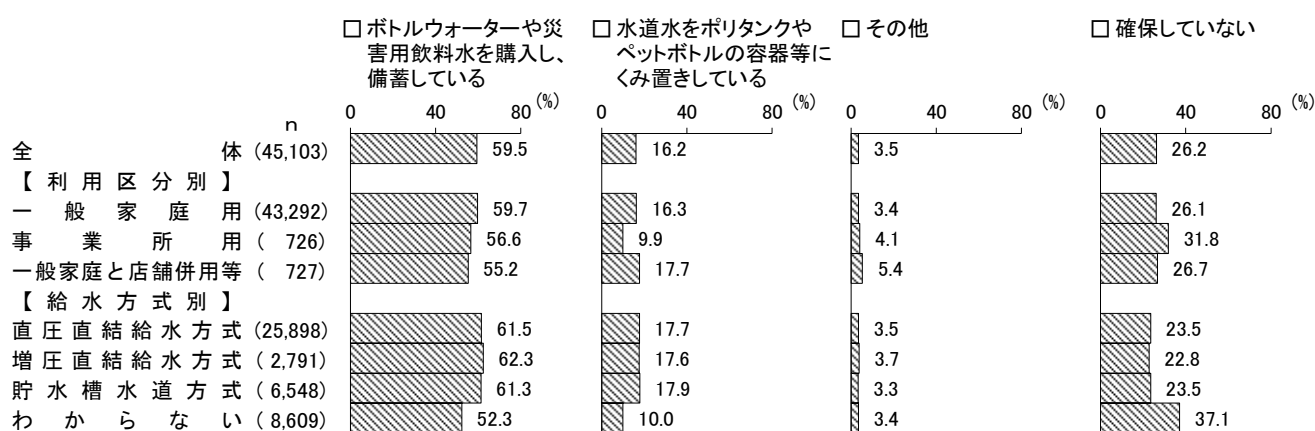
問 日頃から震災等に備えて「飲料水」をどのような方法で確保していますか。(複数回答可)

- 1) 水道水をポリタンクやペットボトルの容器等にくみ置きしている
- 2) ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している
- 3) その他
- 4) 確保していない

〔A：問12〕

〔調査結果〕

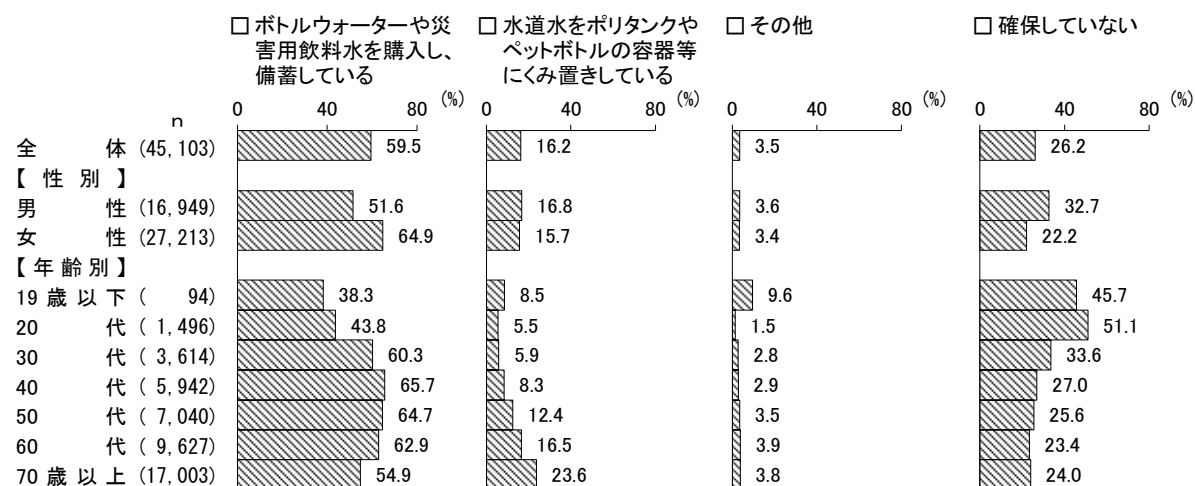
① 震災に備えた「飲料水」の確保状況（利用区分別、給水方式別）〈図表2-4-9〉



<特徴>

- 全体では、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」が59.5%で最も高く、以下、「確保していない」(26.2%)、「水道水をポリタンクやペットボトルの容器等にくみ置きしている」(16.2%)、「その他」(3.5%)となっている。
- 利用区分別では、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」は、一般家庭用で59.7%と最も高くなっている。一方、「確保していない」は、事業所用(31.8%)で最も高くなっている。
- 給水方式別では、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」は、増圧直結給水方式で62.3%と最も高くなっている。

② 震災に備えた「飲料水」の確保状況（性別、年齢別）〈図表 2-4-10〉

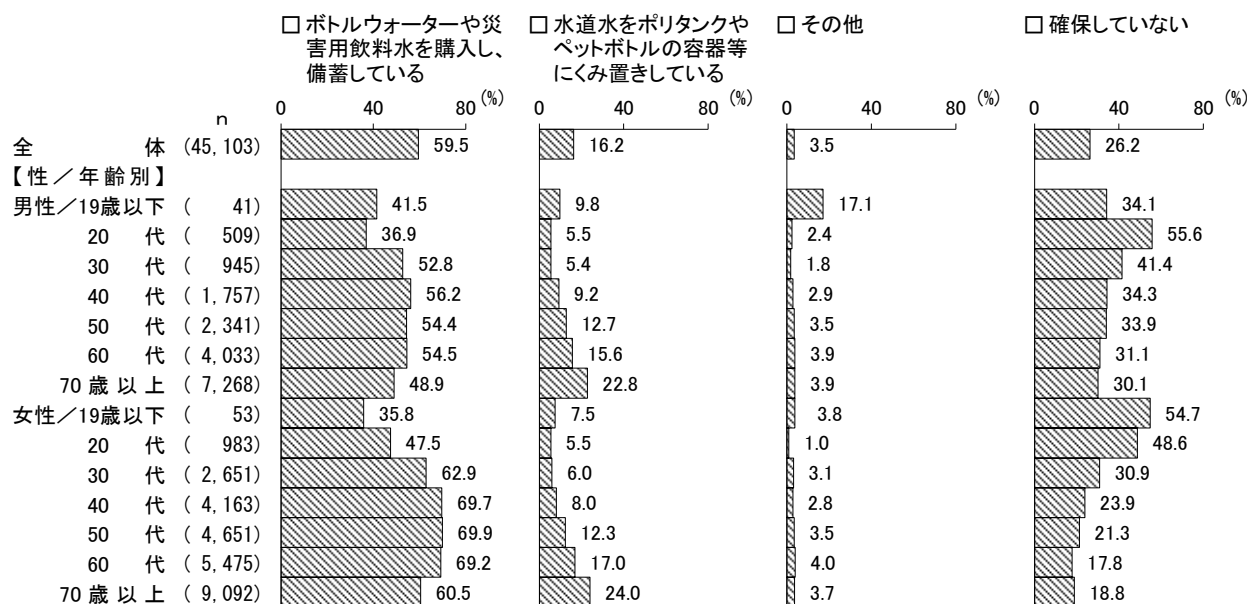


＜特徴＞

○性別では、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」は、女性（64.9%）の方が男性（51.6%）より13.3ポイント高くなっている。一方、「確保していない」は、男性（32.7%）の方が女性（22.2%）より10.5ポイント高くなっている。

○年齢別では、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」は、40代（65.7%）で最も高く、19歳以下（38.3%）で最も低くなっている。「水道水をポリタンクやペットボトルの容器等にくみ置きしている」は、おおむね年齢が上がるにつれ高くなり、70歳以上（23.6%）で最も高くなっている。一方、「確保していない」は、20代（51.1%）で5割を超え最も高くなっている。

③ 震災に備えた「飲料水」の確保状況（性／年齢別）〈図表 2-4-11〉



＜特徴＞

○性／年齢別では、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」は、女性の40代から60代で7割弱と高くなっている。女性では30代以上の全ての年代で6割を超えているが、男性ではどの年代も6割に満たない。

④ 震災に備えた「飲料水」の確保状況（地区別、区市町別）〈図表２－４－１２〉

	調査数	水道水をポリタンクや ペットボトルの容器等に くみ置きしている	ボ ッ ケ ー タ ー や 、 災 害 用 飲 料 水 を 購 入 し て い る	そ 他	確 保 し て い な い	無 回 答
全体	45,103	16.2	59.5	3.5	26.2	0.8
【地域別】						
区部	28,617	16.2	60.3	3.2	26.1	0.7
多摩	14,538	16.1	59.6	3.9	26.1	0.5
【区市町別】						
千代田区	13	23.1	76.9	－	－	－
中央区	295	15.6	58.6	6.8	23.7	0.7
港区	133	17.3	68.4	3.0	19.5	0.8
新宿区	854	16.4	58.0	3.2	26.5	1.1
文京区	620	12.4	63.4	2.7	25.5	0.8
台東区	375	14.9	63.2	2.7	23.2	0.3
墨田区	643	15.6	53.5	2.6	30.9	0.6
江東区	520	16.0	58.8	3.7	27.7	0.8
品川区	850	14.7	58.7	4.4	25.1	2.4
目黒区	1,274	15.9	67.4	3.0	21.5	0.3
大田区	2,307	16.5	62.2	2.4	25.1	0.6
世田谷区	4,035	15.6	64.9	3.1	23.5	0.3
渋谷区	370	19.2	63.2	3.0	21.9	0.3
中野区	1,130	15.6	62.2	3.1	24.6	0.8
杉並区	2,375	16.6	64.3	2.7	23.1	0.6
豊島区	732	17.8	56.7	3.6	28.6	0.5
北区	1,613	18.9	52.9	3.8	29.4	1.6
荒川区	383	13.6	57.2	2.6	30.8	0.3
板橋区	3,025	17.2	56.5	3.3	28.4	0.7
練馬区	1,781	16.3	62.1	3.1	25.2	0.6
足立区	2,107	14.9	58.6	3.2	28.6	0.3
葛飾区	1,121	17.4	56.4	3.9	28.3	0.6
江戸川区	2,061	15.9	55.9	3.4	29.7	0.6
八王子市	2,338	16.1	59.8	4.2	26.3	0.3
立川市	744	14.4	55.0	3.0	32.3	0.7
三鷹市	483	11.2	65.4	3.5	23.2	0.2
青梅市	885	16.0	47.1	5.1	35.6	0.2
府中市	1,308	14.5	61.8	3.7	25.2	0.3
調布市	800	14.1	65.4	3.0	23.8	0.1
町田市	1,220	17.7	63.4	4.2	21.6	0.4
小金井市	386	17.4	63.2	3.9	21.8	0.5
小平市	244	15.2	61.1	2.5	27.5	0.4
日野市	1,131	20.2	60.7	3.8	23.2	0.4
東村山市	589	16.8	59.6	3.9	26.1	0.2
国分寺市	917	16.0	62.7	4.1	23.6	0.4
国立市	255	18.0	58.8	3.9	27.5	0.8
福生市	402	16.4	50.7	4.5	33.1	0.7
狛江市	152	14.5	59.2	4.6	28.9	0.7
東大和市	66	15.2	60.6	－	24.2	1.5
清瀬市	523	19.5	53.9	4.0	29.3	0.8
東久留米市	465	17.6	61.5	2.6	22.8	1.3
武蔵村山市	319	12.9	55.2	5.0	32.3	1.6
多摩市	507	12.8	66.7	3.6	23.3	－
稲城市	179	22.3	54.7	5.6	24.0	0.6
あきる野市	5	20.0	20.0	－	60.0	－
西東京市	297	14.1	63.6	4.4	22.2	1.0
西多摩郡瑞穂町	67	9.0	56.7	4.5	31.3	－
西多摩郡日の出町	256	16.0	50.0	5.1	30.5	2.0
西多摩郡奥多摩町	－	－	－	－	－	－

(人)

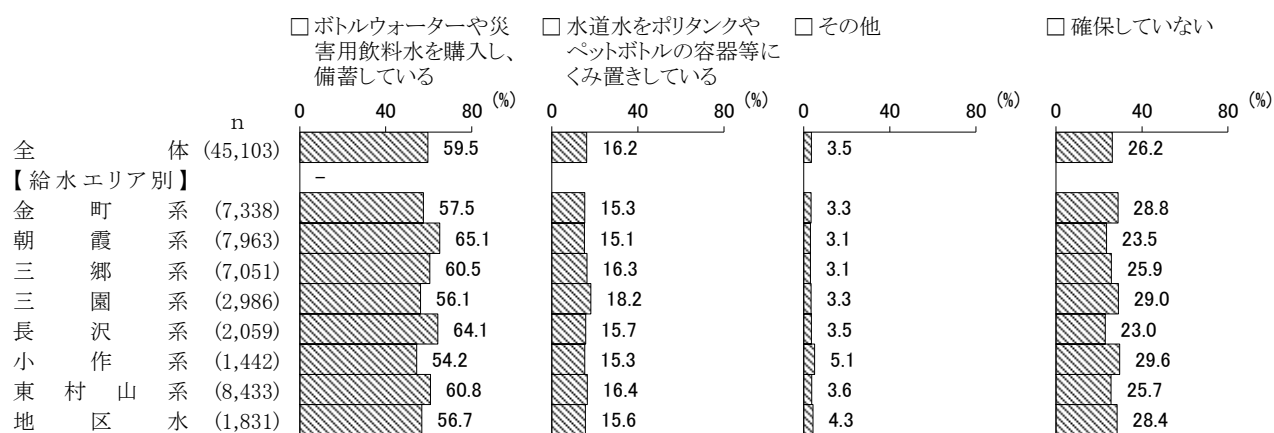
(%)

<特徴>

○地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。

○区市町別では、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」は、港区（68.4%）が最も高く、次いで目黒区（67.4%）となっている。また、「水道水をポリタンクやペットボトルの容器等にくみ置きしている」は、稲城市（22.3%）と日野市（20.2%）で2割を超えている。一方、「確保していない」は、青梅市（35.6%）で最も高く、次いで福生市（33.1%）となっている。

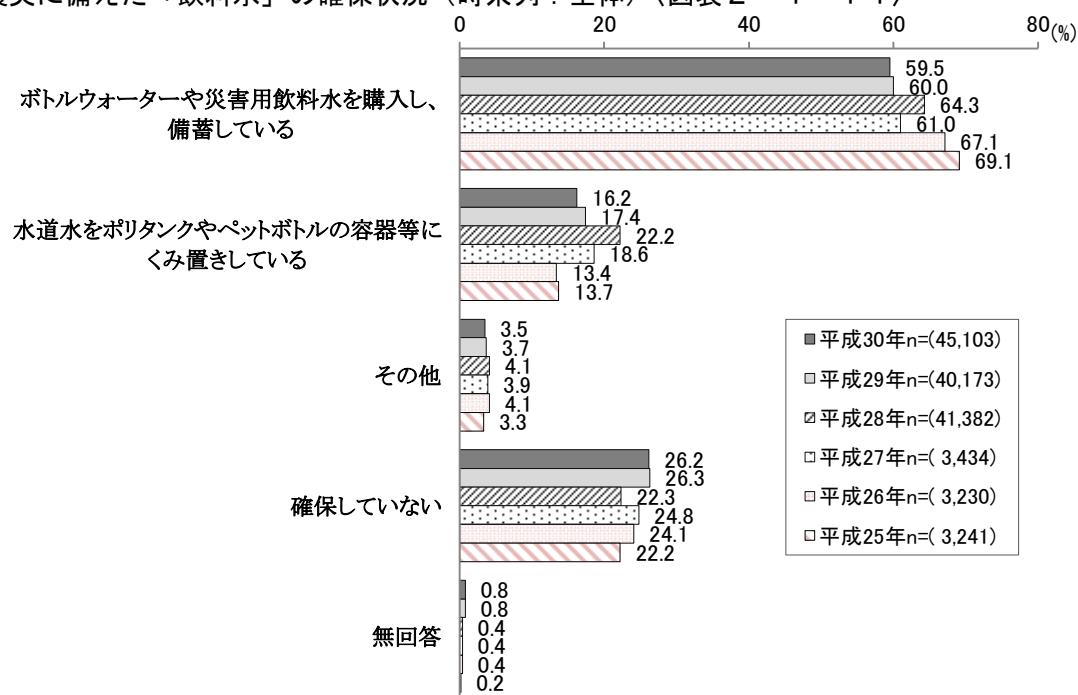
⑤ 震災に備えた「飲料水」の確保状況（給水エリア別）〈図表2-4-13〉



<特徴>

○給水エリア別では、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」は、朝霞系（65.1%）で最も高く、次いで長沢系（64.1%）となっている。一方、「確保していない」は、小作系（29.6%）で最も高くなっている。

⑥ 震災に備えた「飲料水」の確保状況（時系列：全体）〈図表 2－4－1 4〉



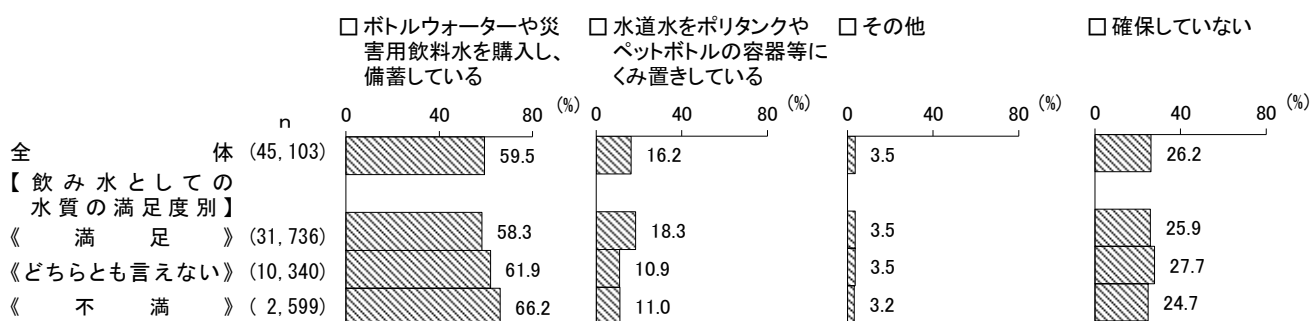
<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向で、特に、平成28年度から平成30年度をみると、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」は4.8ポイント減少し、「水道水をポリタンクやペットボトルの容器等にくみ置きしている」も6.0ポイント減少しており、一方、「確保していない」は3.9ポイント増加している。

〔詳細分析〕（分析の軸はA票の設問）

⑦ 震災に備えた「飲料水」の確保状況（飲み水としての水質の満足度別）〈図表 2－4－1 5〉



<特徴>

○飲み水としての水質の満足度別では、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」は、飲み水としての水質に《不満》な人（66.2%）の方が《満足》な人（58.3%）より7.9ポイント高くなっている。一方、「水道水をポリタンクやペットボトルの容器等にくみ置きしている」は、《満足》な人（18.3%）の方が《不満》な人（11.0%）より7.3ポイント高くなっている。

(4) 震災に備えて「飲料水」を確保していない理由

問 〈前問で「4 確保していない」と回答した方のみにお尋ねします。〉

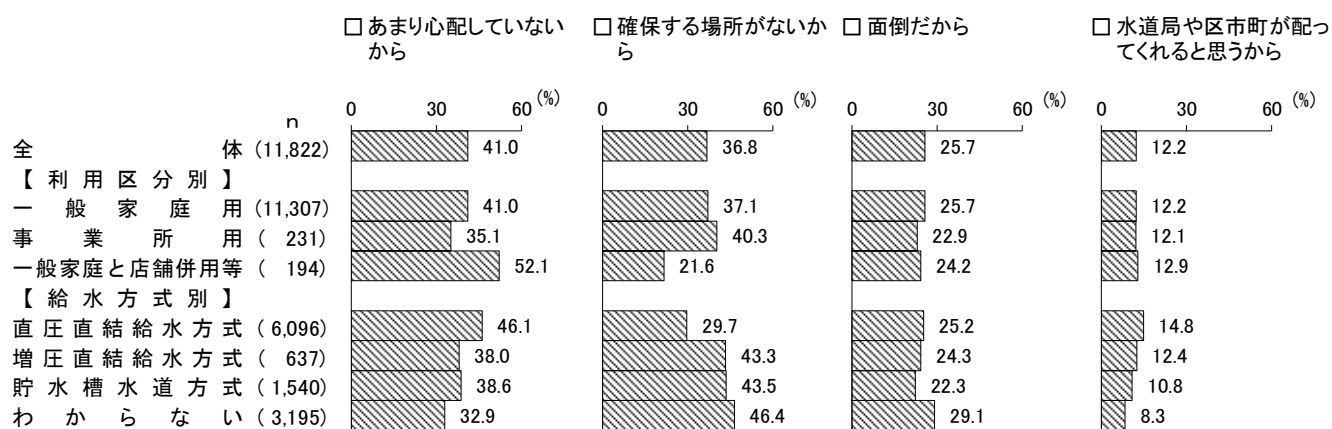
飲料水を確保しない理由は何ですか。(複数回答可)

- 1) あまり心配していないから 2) 確保する場所がないから
3) 面倒だから 4) 水道局や区市町が配ってくれると思うから

〔A : 問 13〕

〔調査結果〕

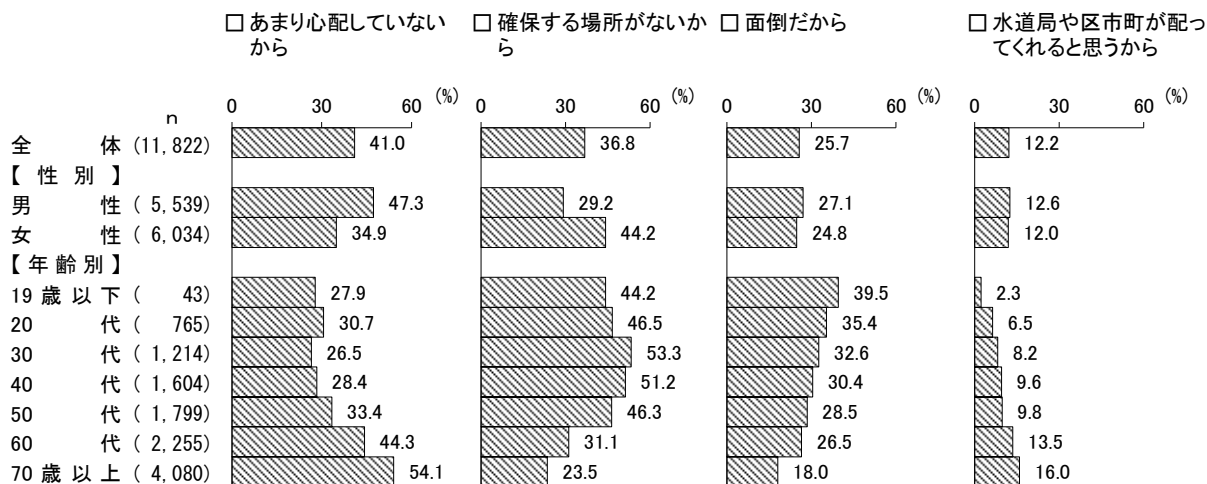
① 震災に備えて「飲料水」を確保していない理由（利用区分別、給水方式別）〈図表 2－4－16〉



＜特徴＞

- 全体では、「あまり心配していないから」が41.0%で最も高くなっている。以下、「確保する場所がないから」(36.8%)、「面倒だから」(25.7%)、「水道局や区市町が配ってくれると思うから」(12.2%)となっている。
- 利用区分別では、「あまり心配していないから」は、一般家庭と店舗併用等で52.1%と最も高く、「確保する場所がないから」は、事業所用で40.3%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、「あまり心配していないから」は、直圧直結給水方式(46.1%)が最も高くなっており、「水道局や区市町が配ってくれると思うから」でも直圧直結給水方式(14.8%)が最も高くなっている。

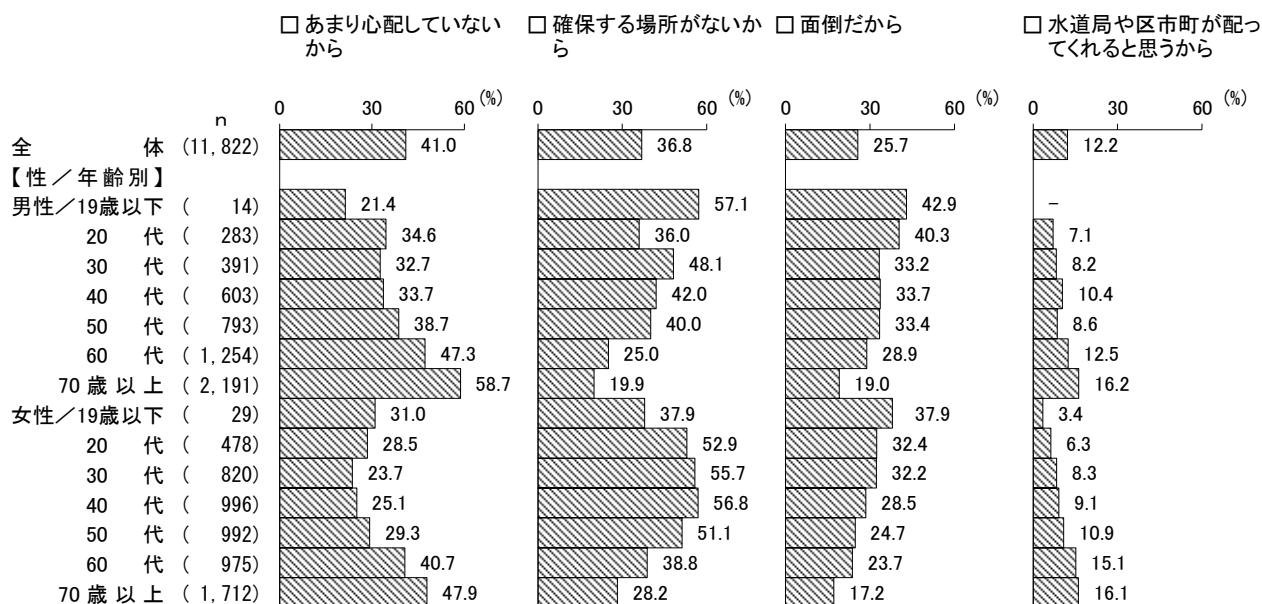
② 震災に備えて「飲料水」を確保していない理由（性別、年齢別）〈図表 2-4-17〉



<特徴>

- 性別では、「あまり心配していないから」は、男性（47.3%）の方が女性（34.9%）より12.4ポイント高く、逆に、「確保する場所がないから」は、女性（44.2%）の方が男性（29.2%）より15.0ポイント高くなっている。
- 年齢別では、「あまり心配していないから」は、30代（26.5%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（54.1%）で最も高くなっている。「確保する場所がないから」は、30代（53.3%）で最も高く、また、「面倒だから」では、19歳以下（39.5%）で最も高く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は低くなっている。

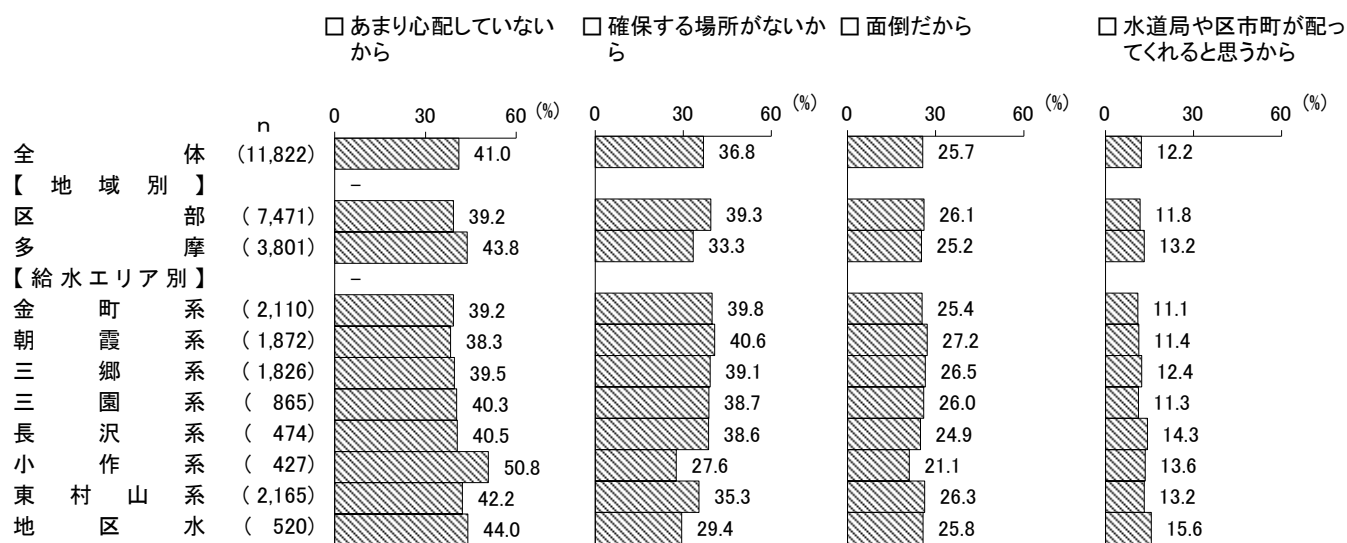
③ 震災に備えて「飲料水」を確保していない理由（性／年齢別）〈図表 2-4-18〉



<特徴>

- 性／年齢別では、「あまり心配していないから」は、男女ともに30代と40代で低く、男性の70歳以上（58.7%）で最も高くなっている。逆に、「確保する場所がないから」は、男女ともに30代と40代で高くなっており、男性の70歳以上（19.9%）で最も低くなっている。また、「面倒だから」は男女ともに年齢が下がるほど割合が高くなっている。

④ 震災に備えて「飲料水」を確保していない理由（地域別、給水エリア別）〈図表２－４－１９〉

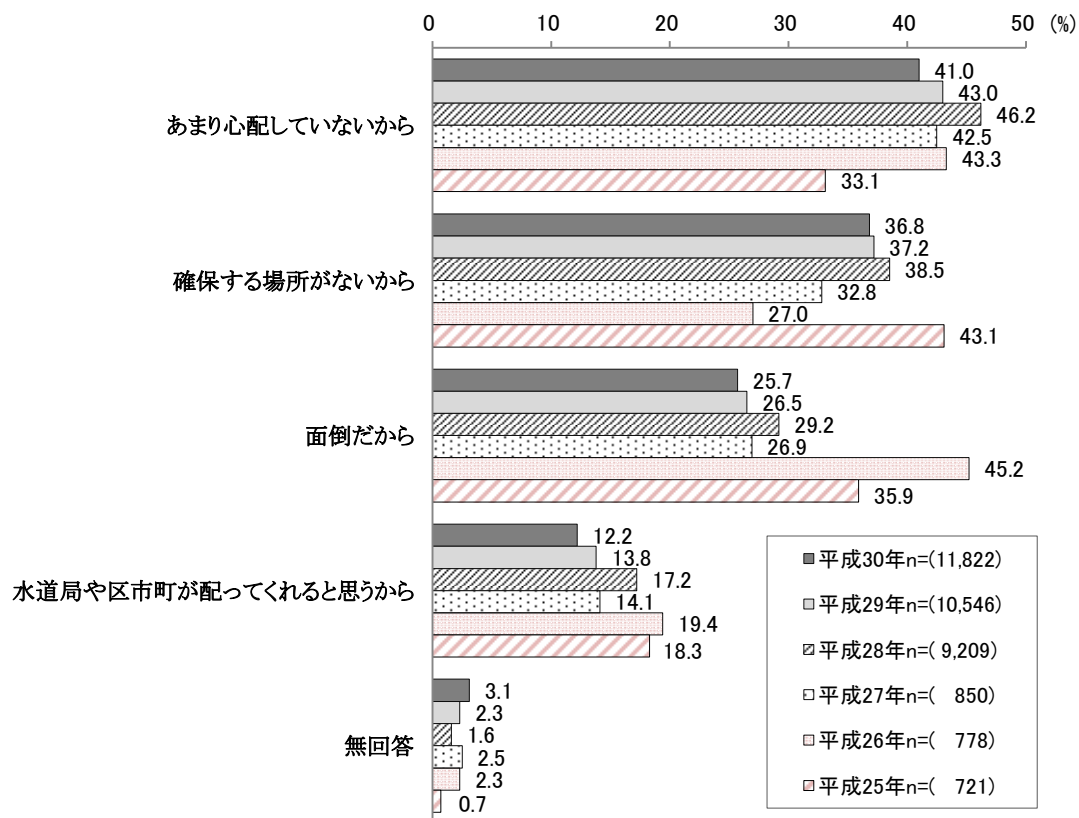


<特徴>

○地域別では、「あまり心配していないから」は、多摩（43.8％）が区部（39.2％）より4.6ポイント高くなっている。逆に、「確保する場所がないから」では、区部（39.3％）が多摩（33.3％）より6.0ポイント高くなっている。

○給水エリア別では、「あまり心配していないから」は小作系（50.8％）が5割で最も高く、「確保する場所がないから」は朝霞系（40.6％）で最も高くなっている。

⑤ 震災に備えて「飲料水」を確保していない理由（時系列：全体）〈図表２－４－２０〉



<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向で、特に、平成28年度から平成30年度をみると、「無回答」を除く全ての項目で割合が減少しており、なかでも減少幅が大きいのは、「あまり心配していないから」が5.2ポイント、「水道局や区市町が配ってくれると思うから」が5.0ポイントとなっている。

（５）最寄りの災害時給水ステーションの認知度

問 最寄りの災害時給水ステーション（給水拠点※）をご存じですか。

※給水拠点 地震等が発生し、断水になった時、公園や浄水場・給水所などで応急給水を受けることができる場所。

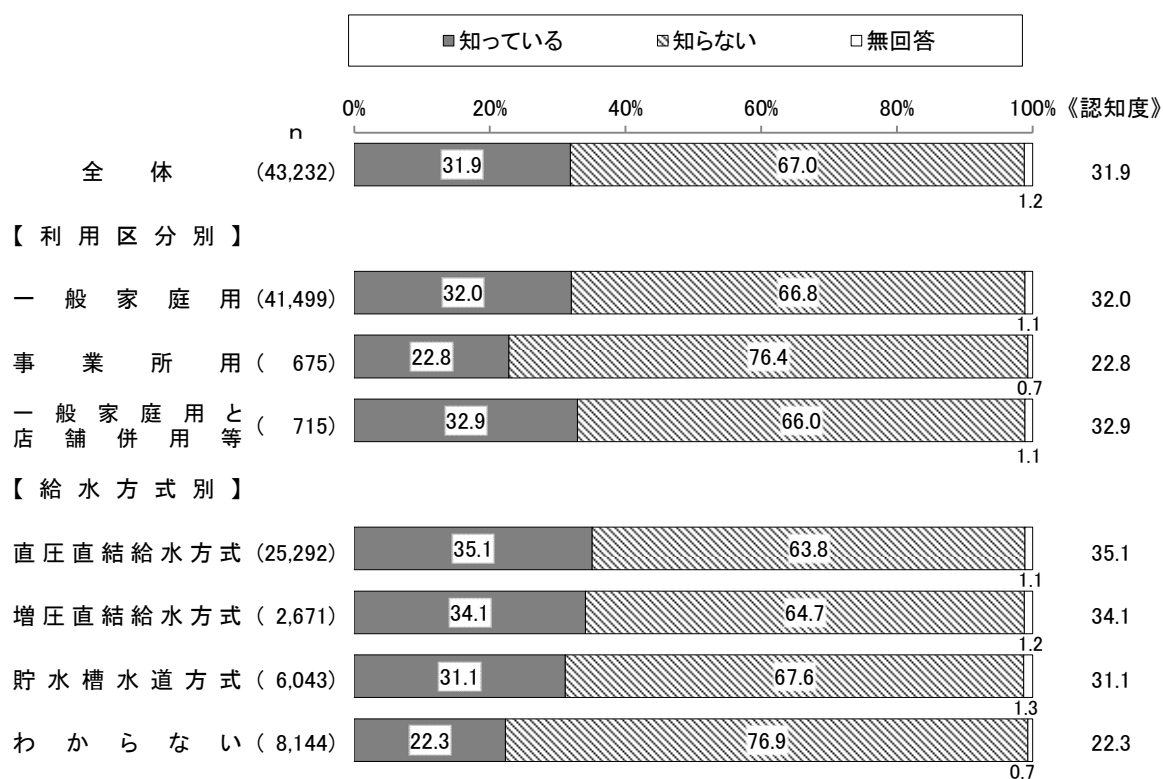
1) 知っている

2) 知らない

〔B：問11〕

〔調査結果〕

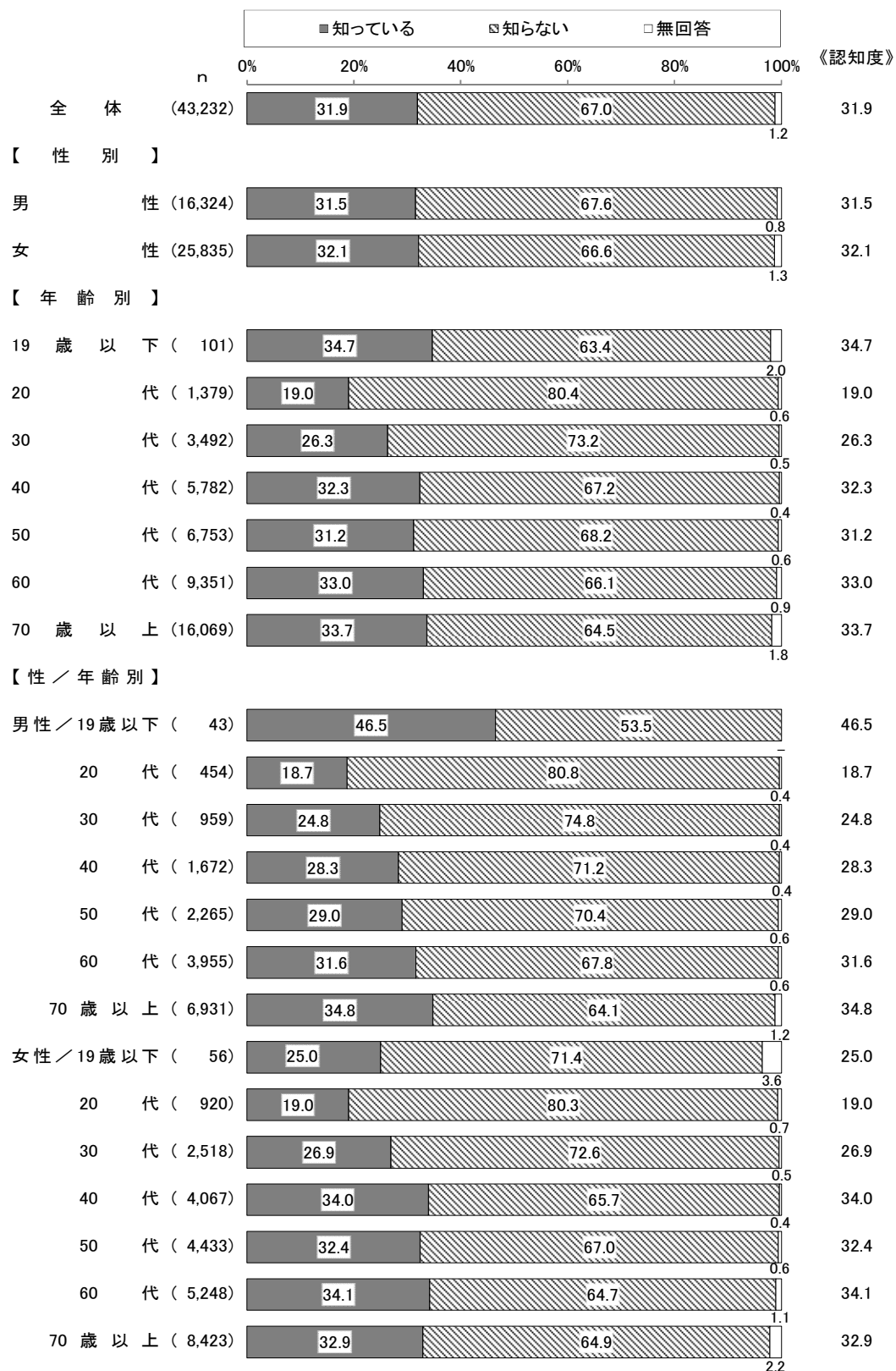
① 最寄りの災害時給水ステーションの認知度（利用区分別、給水方式別）〈図表２－４－２１〉



＜特徴＞

- 全体でみると、「知っている」は31.9%で、「知らない」が67.0%となっている。
- 利用区分別では、「知っている」は、一般家庭用と店舗併用等で32.9%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、「知っている」は、直圧直結給水方式で35.1%と最も高くなっている。

② 最寄りの災害時給水ステーションの認知度（属性別）〈図表 2-4-22〉



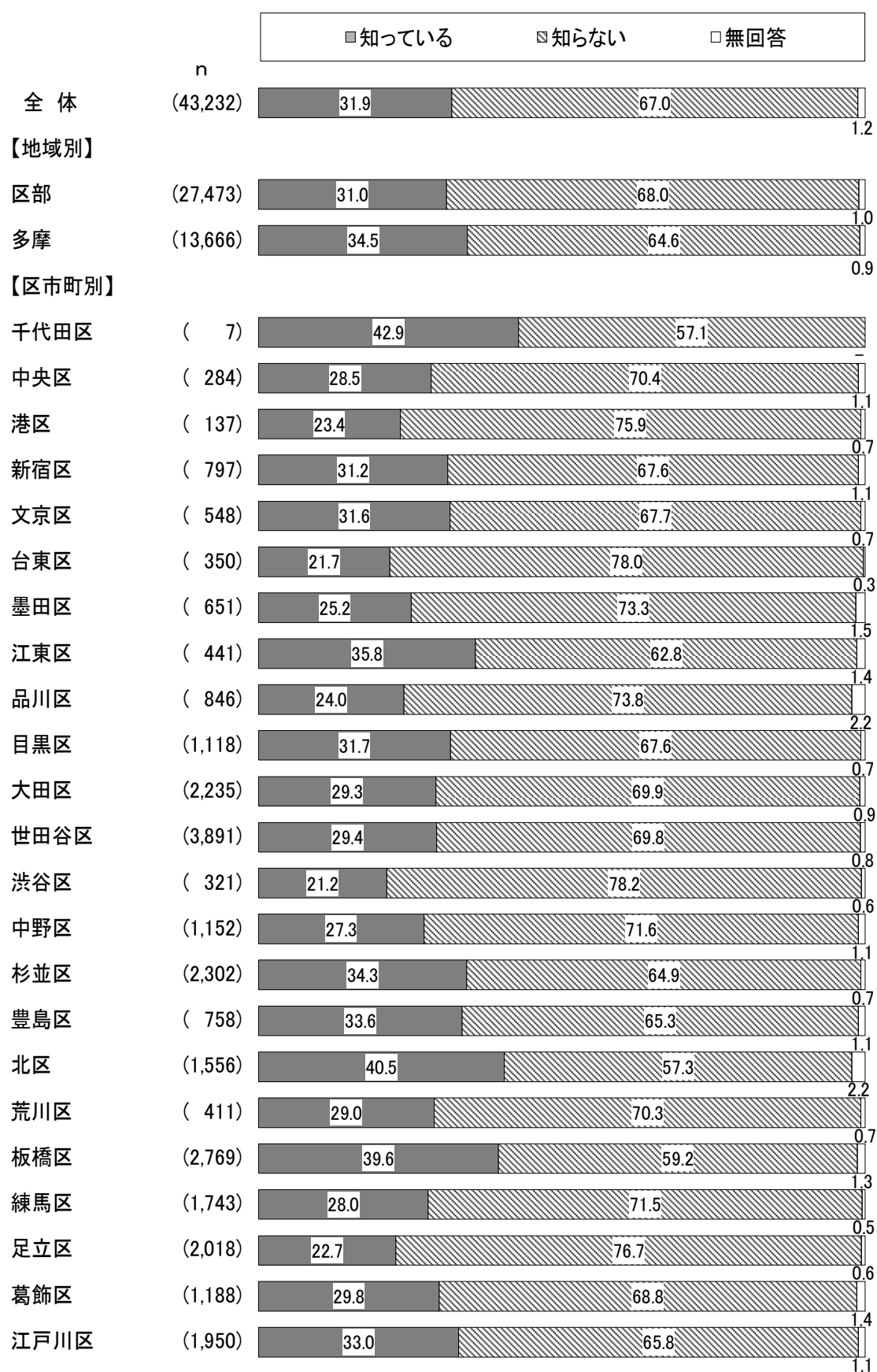
＜特徴＞

○性別では、特に大きな違いはみられない。

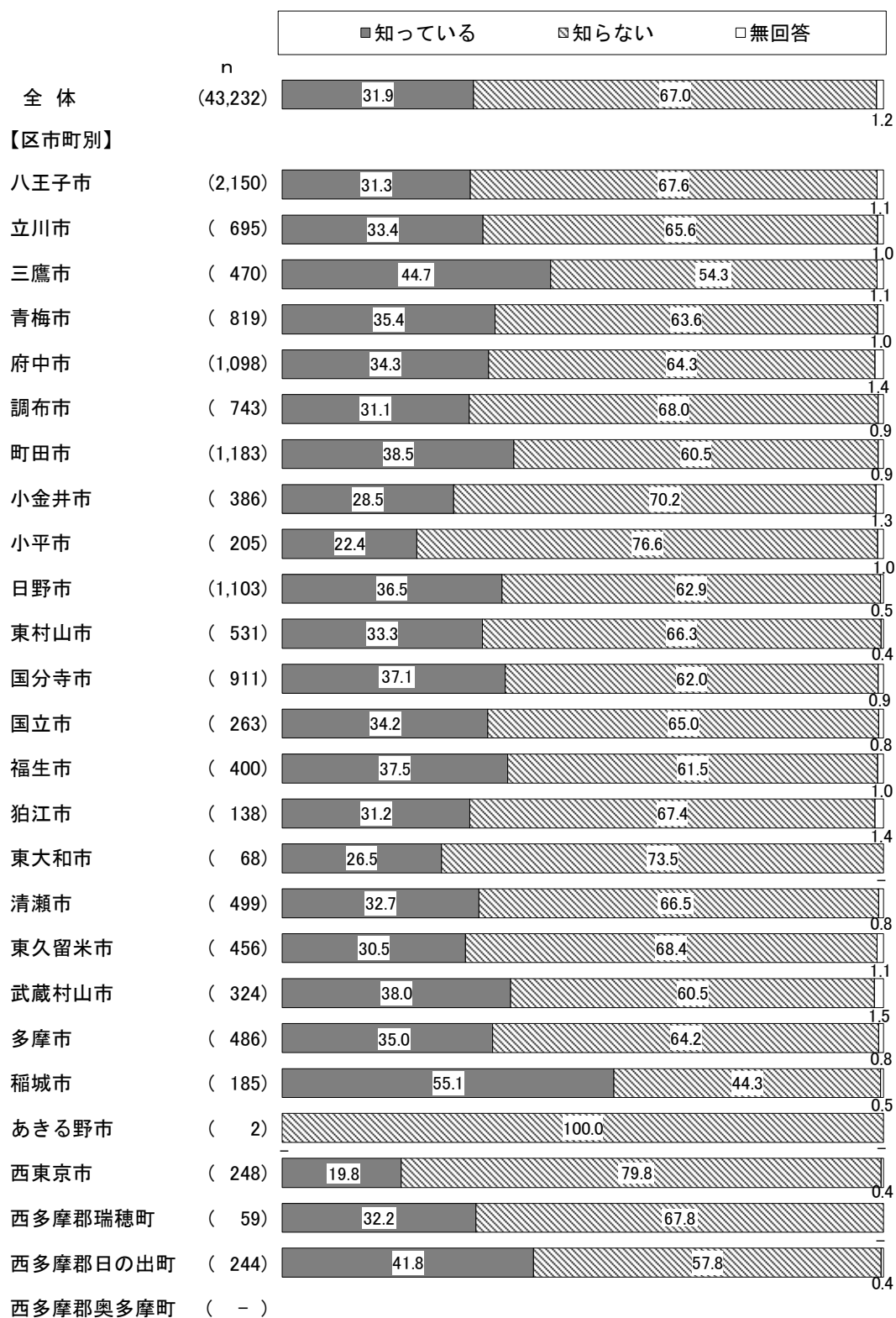
○年齢別では、「知っている」は、20代（19.0%）が2割弱で最も低く、次いで、30代（26.3%）が2割半ばとなっており、その他の年代はすべて3割台となっている。

○性／年齢別では、「知っている」は、男性の19歳以下（46.5%）が最も高く、次いで男性の70歳以上（34.8%）となっている。

③ 最寄りの災害時給水ステーションの認知度（地区別、区市町別）〈図表２－４－２３〉



③ 最寄りの災害時給水ステーションの認知度（地区別、区市町別）〈図表２－４－２４〉

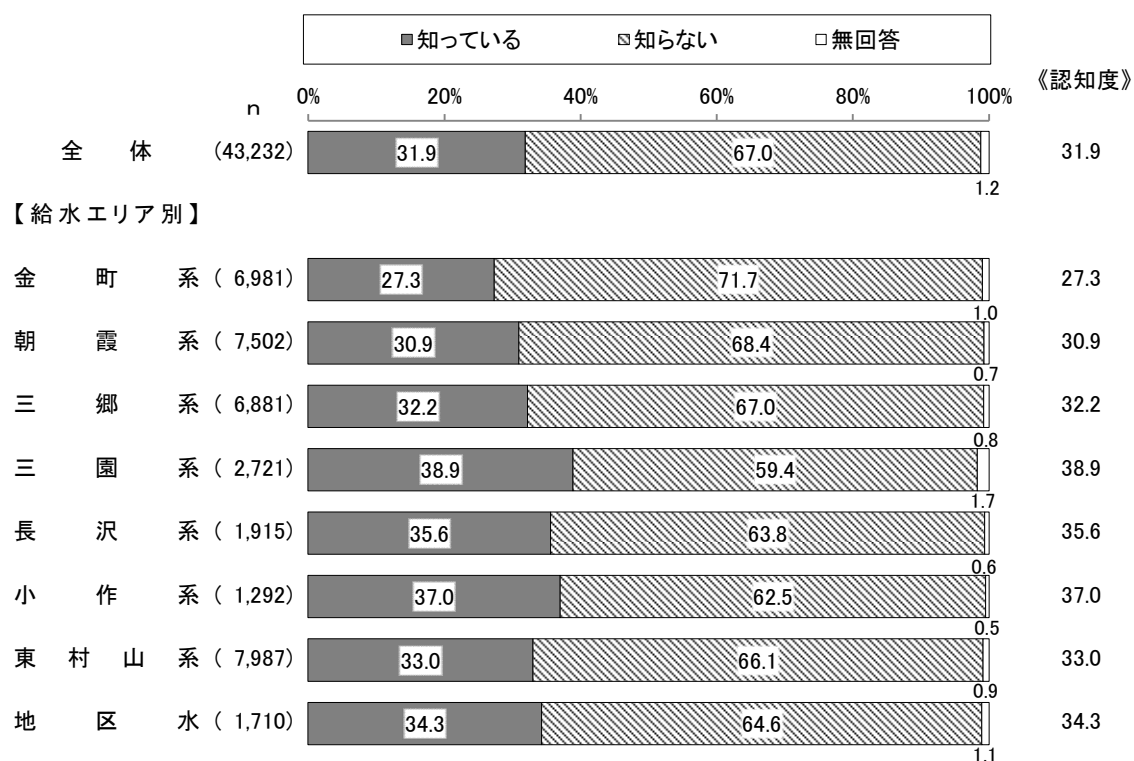


<特徴>

○地域別では、「知っている」は、多摩（34.5%）の方が区部（31.0%）より3.5ポイント高くなっている。

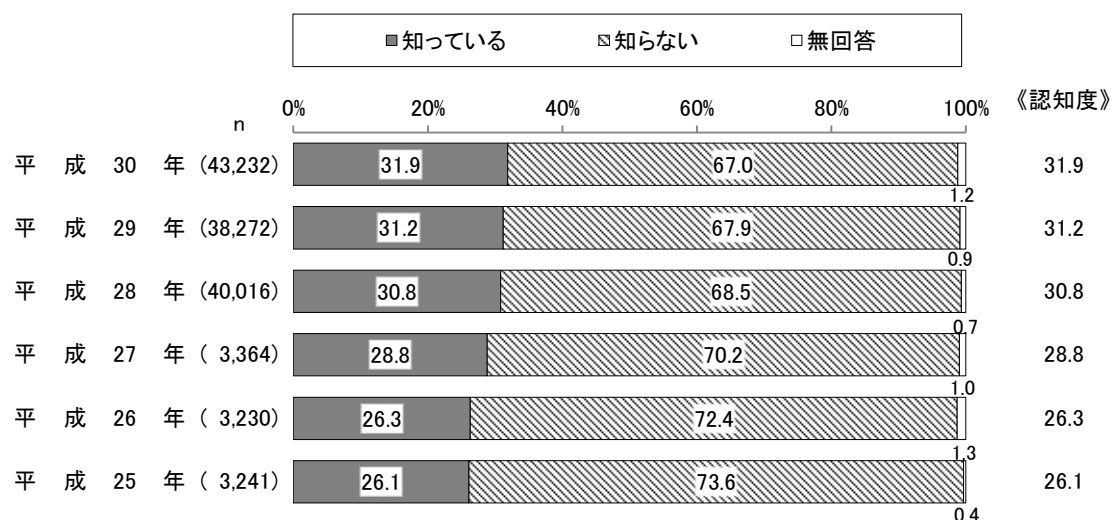
○区市町別にみると、「知っている」は、稲城市が55.1%で最も高く、以下、三鷹市（44.7%）、日の出町（41.8%）、北区（40.5%）、板橋区（39.6%）と続いている。

④ 最寄りの災害時給水ステーションの認知度（給水エリア別）〈図表 2-4-25〉



○給水エリア別では、「知っている」は、三園系（38.9%）が最も高く、金町系（27.3%）で最も低くなっている。

⑤ 最寄りの災害時給水ステーションの認知度（時系列：全体）〈図表 2-4-26〉



○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向をみると、《認知度》はわずかながら増加しており、平成27年度（28.8%）に比較して平成30年度（31.9%）では3.1ポイントの増加となっている。